

# 第4回防災教育推進委員会

日 時：平成21年7月3日（金）

10:00～11:30

場 所：県民会館 1001号室

## 【次 第】

1. 事務局説明 : 事業のスケジュール
2. 各機関からの説明：本年度事業の取組及び他機関との連携の進め方
3. 意見交換

## 【出席予定者】（敬称略、○：防災教育推進委員会委員（代理））

- |                           |         |        |
|---------------------------|---------|--------|
| ○ 気象庁神戸海洋気象台業務課           | 課長      | 小笹 幸和  |
| ○ 兵庫県教育委員会事務局教育企画課        | 係長      | 北川 真一郎 |
| 兵庫県教育委員会事務局教育企画課          | 主任指導主事  | 佐野 恵子  |
| 兵庫県教育委員会事務局教育企画課          | 指導主事    | 中川 智幸  |
| ○ 兵庫県企画県民部防災企画局防災企画課      | 課長補佐    | 筆保 慶一  |
| ○ 神戸市教育委員会事務局指導部指導課       | 指導主事    | 宮本 晃郎  |
| ○ 神戸市危機管理室                | 主幹      | 小久保 康晴 |
| ○ 神戸市消防局予防部予防課            | 課長      | 濱田 諭   |
| 神戸市消防局予防部予防課              | 係長      | 定岡 由典  |
| 神戸市消防局予防部予防課              | 係員      | 竹中 邦明  |
| 神戸学院大学学際教育機構防災・社会貢献ユニット   | ユニット長   | 前林 清和  |
| ○ 神戸学院大学学際教育機構防災・社会貢献ユニット | 専任講師    | 船木 伸江  |
| 兵庫県立舞子高等学校                | 校長      | 常陰 則之  |
| ○ 兵庫県立舞子高等学校環境防災科         | 科長・教諭   | 諏訪 清二  |
| ○ 人と防災未来センター              | 副センター長  | 山本 健一  |
| 人と防災未来センター事業部             | 部長      | 田村 賢一  |
| 人と防災未来センター事業部             | 主幹兼事業課長 | 多治比 寛  |
| 人と防災未来センター事業部             | 事業課主査   | 石田 晃士  |
| 人と防災未来センター研究部             | 主任研究員   | 宇田川 真之 |
| 人と防災未来センター研究部             | 研究調査員   | 松本 澄之  |

※事務局：人と防災未来センター

# 事業のスケジュール

## 【昨年度】

平成20年

7月16日（水） 16:30～17:30 兵庫県災害対策センター  
「第1回防災教育推進委員会」

10月27日（月） 14:00～16:00 文部科学省16階2会議室  
「中間報告会（有識者による評価）」

11月7日（金） 10:00～11:30 兵庫県民会館 1001号室  
「第2回防災教育推進委員会」

平成21年

2月10日（金） 10:00～11:30 兵庫県民会館 1001号室  
「第3回防災教育推進委員会」

2月23日（月） 13:30～16:30 文部科学省旧文部省庁舎2階第1会議室  
「報告会（有識者による評価）」

3月6日（金） 14:30～16:50 ラッセホール会議室「サンフラワー」  
「地域報告会 一大震災が生んだ新たな防災教育を全国に普及」

## 【本年度】

7月3日（金） 10:00～11:30 兵庫県民会館 1001号室  
「第4回防災教育推進委員会」

11月頃 「第5回防災教育推進委員会」  
「中間報告会（有識者による評価）」

平成22年

2月頃 「地域報告会」  
「報告会（有識者による評価）」

3月頃 「第6回防災教育推進委員会」

## 【参 考】

### ■業務計画書（平成21年度） - 抄 -

#### ①防災科学技術教育関連教材等の作成

防災科学技術を組み込んだ新しく魅力的な防災教育教材等の開発を目的とし、本年度はその最終段階として、前年度成果を踏まえ、国内に広く普及可能な教材等の提案を目標とする。このため、前年度に試行的に開発した教材を活用して教育の実践を行い、改訂し、普及を図る。特に、GISを活用した教材等のマニュアルについて、前年度のモデル授業の成果をもとに、より広い地域で活用可能となるように改善を行う。

#### ②学校の教職員等を対象とした研修カリキュラムの開発・実施

全国的に行える教職員対象の研修カリキュラムの開発を目的とし、本年度はその最終段階として、前年度成果を踏まえ、広く活用が可能な研修カリキュラムの開発を目標とする。

このため、前年度に引き続き「研修プログラム編集委員会」を開催し、兵庫県において従来から実施している防災教育推進指導員養成講座、EARTH 訓練・研修会等の研修をベースにして、全国的に行える教職員対象の新たな研修カリキュラムを開発し、普及のための冊子を作成する。また、神戸市内のモデル小学校での実践を踏まえた成果の改善と普及を図る。

#### ③実践的な防災教育プログラム等の開発・実施

体系的な防災教育カリキュラムの開発を目的とし、本年度はその最終年度として、前年度成果を踏まえ、広く活用が可能な防災教育プログラム等の開発を目標とする。

このため、前年度に引き続き「防災教育プログラム編集委員会」を開催し、兵庫県内の授業実践成果も活用して、防災教育プログラムを開発する。その成果を全国に普及させるために授業モデルをまとめた冊子を作成する。また、神戸市内のモデル小学校での実践を踏まえた成果の改善と普及を図る。さらに、教育実践を通じた若者と子ども達をつなぐ実験（はばタン防災教室）を、人と防災未来センター内で行う。

#### ④その他、地域の実情に応じた先進的な取り組みの実施

防災教育に関する全国的なネットワークの確立を目的とし、本年度はその最終段階として、前年度成果を踏まえ、大震災を経験した地域における豊富な蓄積を生かした防災教育ネットワークの全国展開を目標とする。

このため、事業成果の広域普及の取組を行う。また、若者たちに自分の震災経験やその後の歩みを語ってもらう取組（ユース震災語り部）を前年度に引き続き行い、成果をDVD教材化し、広く普及させる。さらに、事業全体に関する地域報告会の開催や成果報告書の普及等を通じて、ネットワークを全国的に展開する。特に、成果報告書については、教材、研修カリキュラム、教育プログラム等の開発成果を盛り込むことで、兵庫県内小・中・高校等や県内外の防災教育関係機関にも役立つものを作成し、関係機関とのネットワーク形成に資するものとする。

以上の個別テーマの実施のための企画立案を行う防災教育推進委員会を年に3回開催する。また、文部科学省にて開催予定の中間報告会および最終報告会に参加し、報告を行う。

# 次世代語り部事業 (ユース震災語り部)

【主担当：舞子高等学校、人と防災未来センター(DRI)】

## 1. 事業概要

阪神・淡路大震災当時に子供だった若者達が自らの震災体験とその後の歩みを語った「ユース震災語り部「私の語り」」をDVD化し、震災の経験と教訓を子供達などに語り継ぐ防災教材として全国に普及させる。

## 2. 取組状況

### 平成 20 年

- 4 月 ユース震災語り部の募集開始
- 7 月 ユース震災語り部(27人)の語りの収録
- 8 月 記念シンポジウムの開催
- 9 月 DVD教材の完成、DRIで語りの上映開始
- 12 月 神戸市教育委員会が市内全学校の防災教育担当者に説明、DVD配布

### 平成 21 年

- 6 月 DVD教材の追加プレス
- 6 月 25 日 芦屋市立山手小学校でDVDを活用した公開授業を実施

8 月 29 日 (土) 14 時~16 時、ラッセホール ローズサルーン

「次世代語り部シンポジウム」

〈主 催〉 舞子高等学校、DRI、兵庫県 ほか

〈テーマ〉 若者達が次世代に震災を語り継ぐ

〈講演〉 諏訪清二 舞子高等学校環境防災科教諭

〈パネルディスカッション〉

コーディネーター：諏訪 教諭

パネリスト：矢守克也 DRI 震災資料研究主幹・京都大学防災研究所  
巨大災害研究センター教授、ユース震災語り部などの若者達、  
DRI 語り部ボランティア

# 発達障害等に対応した防災啓発教材の試作（案）

【主担当：？、人と防災未来センター(DRI)】

## 1. 事業概要

発達障害、あるいは、視覚障害のある児童生徒に対する、防災教育用のマルチメディア教材を作成する。

## 2. 背景

文部科学省においては、障害のある全ての幼児児童生徒の教育の一層の充実を図るため、平成19年4月より、「特別支援教育」を学校教育法に位置づけ、すべての学校における、障害のある幼児児童生徒の支援の充実をすすめている。

平成20年6月18日には、「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」が公布され、その第七条において、「国は、発達障害その他の障害のある児童及び生徒であって検定教科用図書等において一般的に使用される文字、図形等を認識することが困難なものが使用する教科用特定図書等の整備及び充実を図るため、必要な調査研究等を推進するものとする。」とされている。具体的な教材としては、近年、視覚障害や発達障害のある児童への害等に対応した、標準規格による検定教科書の作成が、各地のNPO等によって始まっている。

## 3. 趣旨

命を守るための防災教育は、すべての児童生徒になされる必要がある。当地域においてこれまで実施されて防災教育活動の資産を活用し、全国に率先して、発達障害等に対応した防災啓発教材を開発する。

## 4. 取組みの内容（計画案）

既存の防災副読本（「明日に生きる」「幸せ運ぼう」など）、あるいは、都賀川事故関連の啓発資料などをもとに、マルチメディア DAISY 教材を試作する。

体制としては、DAISY 教材を作成する資源（資材、自在）を有する人と防災未来センターにおいて、教材の作成を行う。そして、協力校において、作成した教材を用いた授業等を行い、品質の向上や、適切な利用方法等の研究を行なう。

# GISを活用したハザードマップ作成授業

【主担当：？、人と防災未来センター(DRI)】

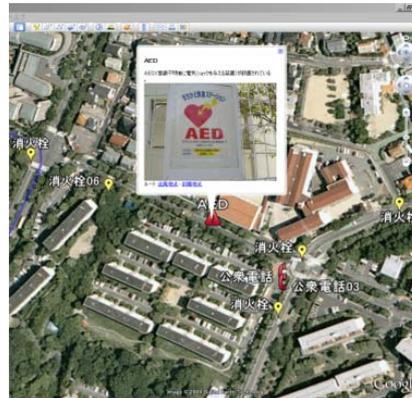
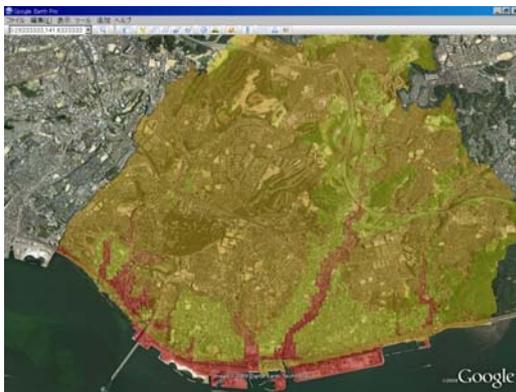
## 1. 事業概要

GISを活用した防災マップの作成や、地域の地震危険度評価等を行なう授業を試行し、その内容・手順等を、全国で実施できるようプログラム案としてとりまとめる。

## 2. 取組状況

### 平成 20 年

- 7 月 兵庫県および神戸市より、災害危険度の GIS データの提供
- 8 月 人と防災未来センターにおいて、社会統計 GIS データ等の準備
- 2 学期 兵庫県立舞子高校において、地震災害を例に試行



### 平成 21 年

- 6 月～ 兵庫県提供の災害危険度 GIS データについて、任意の学校で利用できる  
よう、防災教育開発機構の HP での公開にむけて、兵庫県と人と防災未来  
センターで協議・作業を実施中
- ( 2 学期 協力校において、GIS を用いた授業の試行)
- ( ~3 月 プログラム案のとりまとめ)